



メンターの総務係長兼営業係長 米山幸利さんと打ち合わせするクワミさん



《外国人初採用》ツネマツガス株式会社

**シンピ・クワミ・インチさん** 2018年  
東北大学 経済学研究科博士前期課程修了  
(ガーナ)

2018年東北大学経済学研究科修了後、インターンシップを経てLPガスの販売・都市ガス工事などを行うツネマツガス株式会社に2019年11月に入社。事務のアシスタントからスタートし、日本人従業員と共に日本語を学ぶ時間をもちながら、現在は営業担当に同行するなど、携わる業務の幅を広げている。

**ツネマツガス株式会社**  
代表取締役 常松 泰成さんに聴く  
**外国人初採用、そのきっかけとは—**

今後ますます国際都市化する仙台市では、外国籍の方も増加傾向にあります。ツネマツガスはLPガスを供給するにあたり、外国籍の方々への対応の必要性を感じていました。また、将来の海外進出や海外企業との連携の可能性を模索する中で、そういった変化に対応できるよう日本人にこだわらず頑張る人を採用したい、という風で考えていたところ、DATEntreを通じて留学生と話ができる機会があり、クワミさんと出会ったのが一番最初のきっかけです。



常松社長とクワミさん

その後実際にクワミさんにインターンシップに参加してもらい、5日間の中で彼の礼儀正しく丁寧な所作や振る舞い、勤勉な性格、謙虚な人柄に触れ、インターンシップ終了後、「一緒に働いてみませんか？」と声をかけました。クワミさんには「会社が変わる“きっかけ人”」として活躍してもら

いたいと思っています。

**一緒に働く仲間としての魅力**

クワミさんの魅力は、会社や仕事内容について意欲的に学び吸収しようとする姿勢、礼節を重んじる人柄です。クワミさんの出身国ガーナでは、目上の人を尊重する文化や時間の感覚、食など日本と共通する点が多く、これも採用ポイントの1つでした。彼の人柄があったからこそ、社内全体としても自然と良好な関係が築けたのだと思います。クワミさんの入社に際してこのような経験ができたことは、会社としてもプラスの刺激になっています。



**採用に際しての社内の反響は**

外国人人材初採用ということで、お互いに馴染むまで時間がかかるのでは…という心配がありました。その人柄から自然と社内にとけこんで

自分史上一番輝く今。  
自分のキャリアや  
人生のやりがいを見つめ、  
多面的に進化する先輩たち。  
職場で輝く仕事のイチ面に迫ります。

**外国人  
留学生の先輩  
働くイチ面  
宮城県で就職した**



アリティーブ  
ariTV株式会社

**ユニ・ヌルル・アジザさん** 2017年  
東北大学 国際文化研究科博士前期課程修了  
(インドネシア)

2012年に東北大学入学と共に日本へ。就職に際し東京からのオファーを受けるも、大好きという仙台での就職を考えると、仙台市のインターネットテレビ局で、映像制作やWEBプロモーション・イベント運営などを行うariTVへ2018年8月に入社。現在はムスリム海外事業部に所属し、ハラルビジネスコンサルティングやデジタルマーケティングを担当している。

**ariTV株式会社**  
代表取締役 佐藤 貴之さんに聴く  
**外国人採用、そのきっかけとは—**

当時アルバイトに来ていた留学生からの紹介で、2015年にユニさんと出会いました。ariTVはインターネットTV局として、地元宮城県を中心に日本のコンテンツを多言語で海外へも配信しているため、インドネシア語が分かるユニさんがアルバイトとして来てくれたのはとても嬉しかったです。

最初の頃は大人しいイメージで日本語もあまり得意ではないのかな？という印象でした。ユニさんが東北大学大学院修了後、2018年に1度母国に帰ったタイミングがあり、ariTVで働きたいという話も出たためインドネシアに会いに行った際に、イキイキと母国の案内をしてくれるユニさんは日本語も格段に上手になっていて、さらに、高校生時代にはアメリカに留学するなど、母国語や日本語の他にも英語やマレーシア語も堪能で優秀。ユニさんとだったらムスリム関連の新しい仕事ができるイメージが湧き、採用に至りました。現在は、記事制作や翻訳、動画編集、マーケティング、企画立案、アルバイト管理など多岐にわたる業務を担当してもらっています。



佐藤社長と相談しながら作業を進めるユニさん

**一緒に働く仲間としての魅力**

なんといってもバイタリティーあふれる活動的なところが魅力ですね。仕事、プライベートに関わらず、探究心が強く気になったことに積極的に飛び込んでいく姿が印象的です。例えば、ムスリムには施しの文化がありユニさん個人としても、母国の約20人に勉強に必要な本やユニフォームなどの支援を行なっています。さらに「クルパン」という羊や牛などの動物を生贖として捧げ、神への信仰心を示す行事では、日本に住むムスリムから寄付を集める活動を率先して行うなどの一面も。ユニさんの積極性が社内全体へもよい刺激になり、こういった文化の違いによる“考え方の比較”ができることも、新しい気付きが得られ視野が広がるきっかけになっています。

**外国人採用で留意したことは**

これまでも多国籍なスタッフが在籍していることもあり、社内の受け入れ態勢として異なる文化への配慮やフォローは意識的に行なっています。みんなで飲食店へ行く時は食べられるメニューがあるところをピックアップするなど、社内的にもそういった配慮は根付いています。逆に取材先でムスリムの方が食べられるメニューを提案させていただいたり、外国人採用を機に幅の広がりがも



感じています。ムスリムであるユニさんが入社してからは、社内にお祈りスペースを作り、正午と午後にお祈りの時間を設けています。

**現在の課題と今後の目標とは—**

大学・大学院では英語100%のプログラムを受けていたユニさん。日本語は帰宅後や休日の時間を使い勉強していました。入社当初に比べて現在は会話やメールのやりとりなどもレベルアップ。「もっと日本語が上手になりたい!」と社内でもお問い合わせの電話対応を率先して行うなど、課題に対して意欲的に取り組んでいます。

**数年先を見越した期待とは—**

会社としてテーマとしている「動画を通じて“自分たちの暮らしをよくしていく”こと」。それを実現するための手段は1つではなく、色々な方法を柔軟に取り入れていきたいと思っています。その中でユニさんが責任者として運営している『ジャバランTV』を活用して、日本の商品をインドネシアに紹介し販売する会社を立ち上げたい、という夢があるユニさん。そんな彼女の人生設計に合わせてバックアップしていきたいですね。やりたいことを一緒に作っていきたくと思っています。